
彼と虫たち

町田克己

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼と虫たち

【Nコード】

N8050Z

【作者名】

町田克己

【あらすじ】

彼は悔やんでいる。今度の虫を創ったのは失敗だった。でも、何もしないうちに、虫たちは、それに気付かないまま勝手に滅びるだろう。

近頃彼は気分が優れない。彼にたかっている虫の一部が異様に増えて来たのだ。今は、丁度背中 of 辺りで、また虫たちが沢山集まって暴れている。そのように、お互いに喧嘩をし、共食いをするのはまだ我慢できるが、今度の虫たちは毒の煙を出すのだ。彼の体をほぼ覆い尽くしそうなまでに虫が増え、それが吐き出す毒の煙に包まれて、彼は最近蒸し暑くて仕様が無い。

こんなふうに、体にたかった虫が増え過ぎて鬱陶しい思いをしたことは、これまでも何回かあった。そんな時、彼は冬眠をする。それで虫たちを凍えさせて退治する。またある時は、遠くから飛んで来る小石を体にぶつけ、その衝撃で虫たちを振り払うこともあった。そして、その度に彼はサッパリして気分を変え、それまでとは違う新しい虫を創り出してきた。

これまで、一体何種類の虫を創り出してきただろう。大きな虫もあれば、小さいが物凄く増える虫、大人しい虫、暴れる虫。しかし、今回創ってしまった虫は、失敗だった。爆発的に増え、他の虫を駆逐し、暴れ回る。おまけに、彼の体の中にまで穴を掘って潜り込むうとしたり、顔の周りをブンブン飛び回り、毒の煙を吐き出す。今までの他のどんな虫も、これほど鬱陶しくはなかった。

彼は、もう直ぐ生まれて何回目かの冬眠に入る。それで虫たちもかなり退治できる。しかし、虫たちは、それを待たずに滅びるだろう。吐き出している毒雲の量がもう限界に近づいているのだ。それに伴って彼の体温が上がり、掻いた汗が虫を洗い流す。だけど、虫たちはそんなことも知らず、彼の右肩のあたりで、また、武力紛争を始めたようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8050z/>

彼と虫たち

2011年12月25日19時46分発行